

教育目標 【笑顔 夢 感動】

むくの木



掛川市立 横須賀小学校 平成27年10月30日 第6号

「本気」で一步ふみだす

校長 松村敏典

「玄関前の金次郎さんのように本気で一步ふみだすことが、きっと後期につながるはずです。」こう呼び掛けた前期終業式から3週間になります。道に捨てられた稲の苗1本1本を大切に育てた結果、金次郎さんは1俵の米を収穫し、そして、それを5俵、20俵と増やしていったというお話を紹介しました。金次郎さんは自分の成功を自慢したのではありません。村の人みんなに、「小さな努力をこつこつと積み重ねていけば、いつかすばらしい結果に結びつくんだ。みんなと一緒にがんばろうよ。」ということを伝えたのです。私は、金次郎さんの生き方から本気を感じます。みんなのために、みんなで頑張ろうという絆を感じます。



「本気と絆」これが後期第3ステージのキーワードです。今までの自分から一步ふみだして、本気で取り組むこと。みんなで学級や学年、横小をよりよくしていこうという気持ち「絆」を大切に、自分から本気で動く「たかめあう」ステージにしていきたいです。

先週、エコパでの市陸上大会に横小を代表して参加し、輝かしい成績を残した6年生の姿から、下級生たちは多くのことを学びました。4月から、朝に、休み時間に、放課後に練習を積み重ねてきた6年生。雨の日は体育館で、夏の暑さにも負けずに頑張りました。互いに声を掛け合い、励まし合って練習してきた姿から、下級生たちは本気で取り組む姿と仲間の絆を感じとったはずです。励ます会での1年生のエールにも一人一人の手形を押した一致団結の横断幕にも、運動会で見せた6年生の本気の応援が引き継がれているような迫力を感じました。励ます会では、昭和19年に本校を卒業された先輩方から「横小の子どもたちのために」といただいた寄付で購入した3本の「笑顔・夢・感動ありがとうトロフィー」の話をしました。6年前、新型インフルエンザのために学級閉鎖になった横小は、市内の学校で唯一陸上大会に参加できませんでした。6年生が練習に打ち込んできた成果を発揮する場を何とかつくってあげたいと、当時の担任が中心になって、エコパで横小だけの陸上記録会を開き、金メダルの代わりに3本の「笑顔・夢・感動ありがとうトロフィー」を6年生に授与したのです。「金メダルはもらえなかったけれど、この大会は一生の思い出です。」その時、大会の記録には残らない幻の新記録を出したハードル選手の卒業アルバムの言葉です。

横小の代表として、卒業生たちの思いを受け継いでくれる在校生たちが、みんなが本当に頑張れてうれしかった時の「笑顔ありがとうトロフィー」と、また新しい目標が見つかった時の「夢ありがとうトロフィー」、心からの喜びや思い出ができた時の「感動ありがとうトロフィー」を今後も様々な場面で授与できる笑顔・夢・感動いっぱい学校にしていきたいと思います。終戦間近に卒業された方々には、楽しい運動会や陸上大会の思い出もなかったことと想像します。平和で暮らせる今、自分たちに与えられた機会・場に感謝し、チャンスを生かすことの大切さを子どもたちに教え、今までの自分から一步ふみだす努力と、その勇気を与えてくれる仲間の絆を大切に、本気でたかめあうステージになるよう全職員で指導していきます。来月5日、生涯学習センターで合唱を発表する4年生にも、仲間と共に本気の歌声を披露してくれることを期待しています。6年前の4年生は、やはり新型インフルエンザのために3学級中の1学級が、キラリ！ふれあいコンサートに出られずに大変残念な思いをしました。本番直前に高音と低音のパートを組み直して、出られなかった30人の分まで歌いきった卒業生たちの思いを伝え、今年の4年生にも本気で一步ふみだす体験をさせたいものです。今年もあと2か月余りとなります。修学旅行、むくの木発表会、持久走記録会、観音山自然教室等、大きな行事も続きます。保護者の皆様、地域の皆様の御理解と御支援を引き続きよろしくお願い申し上げます。